

2021年第1回おおぶ文化交流の杜運営協議会

日 時 : 2021年5月20日(木) 14:00~16:00

場 所 : おおぶ文化交流の杜 会議室

出席者 : 委員7名／大府市（文化交流課田中課長）事務局（JTB コミュニケーションデザイン：以下 JCD 総合館長野村・営業第2課森 図書館流通センター：以下 TRC 図書館館長上野・図書館部門マネージャー小倉）

発 言 者	議 事 錄
事 務 局	<p>本日はお忙しい中お集まり頂き、ありがとうございます。</p> <p>これより2021年度第1回おおぶ文化交流の杜、運営協議会を始めさせていただきます。</p>
司 会	<p>アローブも開館8年目になりました。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、かつてないような運営を強いられていますが、感染対策をしながら安心安全な運営を心がけていると聞いております。</p> <p>本日は文化部門・図書館部門の昨年度下半期報告と、第2期（2019～2023年度）中期事業計画における文化部門の変更点、今年度の事業運営計画について議論して頂きたいと思っております。忌憚のないご意見をお願いします。本協議会の規約に則り委員過半数が出席の為会議成立となります。</p>

～2020年度下半期文化交流部門より説明～

- 司 会 コロナ禍においても工夫して事業をしていると感じている。各事業のアンケート結果が好評だったのが印象的だった。それではご意見ご質問などがあればお願ひしたい。
- B 委 員 「育み隊」のオリジナルロゴは公開しているのか。
- J C D 館内情報誌「杜の音」でも告知した。今後は「育み隊」のメンバーが、イベントの際にオリジナルロゴがプリントされたお揃いのユニフォームを着用することになっている。
- B 委 員 今後も役に立つと思うのでうまく使ってほしい。
- 「ココにもイタリア！イタリア講座」の写真展は、図書館に溶け込む展示方法だったとのことだが、具体的にどのような展示だったのか。
- J C D 写真はイタリア人写真家「アンドレア・リッピ氏」の作品で日本の原風景が多かったが、特別なコーナーを設けるのではなく、図書館の書棚は若干低めであるので、書棚の上や出窓などを活用し、図書館の設備を活かした形での展示をした。グループ室も活用した。
- B 委 員 図書館との協力を上手く行ったのは良かった。
- E 委 員 「育み隊」として活動に参加しているが、昨年度は新しい事をできるのではないかという芽ができたのが良かった。オリジナルロゴやユニフォームを作ったのも新しい事だ。「TGIF」のコンサートを、ふれあいの路からホールに変更して実施することができた。またその「TGIF」に図書館サポーターさんが参加して下さったことや、「図書館子どもまつり」に向か「育み隊」の中に実行委員会が発足したのも新しい連携だ。
- C 委 員 コロナ禍においても、定期的に講座を開催する意味は大きい。報告書には良いところしか

公表されていないのかもしれないが、参加者からの意見も高評価だ。館内情報誌「杜の音」も拝見しているが、これはなんと読んだらいいのか。

J C D 「杜（もり）の音（おと）」と「杜（もり）ノート」をかけており、「もりのおと」と呼んで欲しい。

C 委員 最新号（Vol.7）の表紙写真を見て非常に感動した。感染対策として、舞台ではなく客席でウクレレ演奏をした写真だったが、おそろいのマスクで一体感も感じられた。毎年積み重なっていけば「大府といえばウクレレ」と言ったような何かが生まれてくるかもしれない。アローブでは良い講師を呼んで、魅力的な講座を実施出来ている。企画運営の方針がしっかりしていると感じている。ウクレレはできる事なら自分も参加してみたかった。図書館が日本一になっているように、日本一の公設文化施設を目指して頑張って欲しい。

大府市 1月、2月に開催した「地域展開事業」において、「シビックプロジェクト」や「サポート一養成講座」という形で、これまでには考え付かなかつたアイデアを実現することができて感謝している。コラボする以上は、全館を利用して、みんなから受け入れられるような企画にしたいと思っていたが、とても良い機会になった。

～2020年度下半期図書館部門より説明～

司 会 図書館も苦労していろいろなやり方で運営されているのが伝わってきた。ご意見ご質問などあれば伺いたい。

D 委員 ボランティアとして、年3回の絵本講座を企画させてもらっているが、参加者はリピーターの方が多く、他館のスタッフさん同士で申し込まれたケースもあったようだ。武豊の図書館でも同じような講座を開催されたとも伺ったので、大府の資料を使ってもらえたら嬉しいし、大府のスタッフさんの評価も上がっているようで更に嬉しい。

B 委員 おたのしみ映画上映会「天使のいる図書館」の事業実施報告書の画像について、資料①と②が反転しているのが気になった。

T R C 以後気を付ける。

B 委員 コロナ禍においてよく頑張っていると感じている。愛知県で一番進んでいる図書館だ。

G 委員 ふるさと講座「本の装幀の世界」の講師、森岡完介氏は自身の中学校の美術の先生だった。どんなことでもほめて下さるとても素敵なお先生だ。また文章講座「ボールペンで年賀状を書こう」は通信講座として実施されたが、コロナ禍で何もできないところから新たな取り組みが生まれてきたのは、とても素晴らしいと思う。

F 委員 コロナ禍でもどうやったら安全に講座を開催できるかなど、工夫があるところが良い。年始の福袋も毎年楽しみにしている。自分では選ばない本との出会いがあり、意外性が楽しくてとても素晴らしい。

D 委員 通信講座や動画配信、ZOOMの利用など、色々な知恵を絞り講座を開催され素晴らしい。「英語で本を読み隊」はZOOMを利用されているが、とても面白いと思う。対面の講座よりも参加しやすい方も多いだろう。福袋については人気があり午前中でなくなってしまったようだが、同じテーマの本を、親子で一袋にした「ファミリーパック」があっても面白いだろ

う。そうすることで1家族1セットになるので、利用できる人も多くなるし、親子で探す楽しみも生まれてくるのではないかだろうか。

ふるさと講座「本の装幀の世界」は、これまで芸術伝統をテーマにした「ふるさと講座」の中では実施してこなかった分野だが、幅広い年代の参加があつたようなので今後も続けて欲しい。映画上映会は2回実施されたようだが、報告によると60代、70代の参加者が多い。夏休みに子ども向けの作品を上映すれば結果は違うのかもしれないが、図書館の上映会は高齢者のニーズが多いのだろう。今後はそういう事も意識して作品を選んだら良いと思う。「冬の怪談」に使用した障子と襖はどうやって準備したのか。

T R C 昨年1月に実施した「市民交流イベント 夢幻百物語」の時に使用したものだ。

J C D 舞台備品としてホールで保管しているが、もともとは舞台スタッフの私物だ。

E 委員 「ふるさと講座『日本百名山』深田久弥の真実」について話をしたい。皆さんの手元に冊子をお配りしたが、これは2年ほど前から大府市在住の近代女性史の研究家「門玲子氏」が、図書館のレファレンス担当者の協力を得て、膨大な資料を集めて作られた冊子だ。大府の図書館がなければ完成しなかった本だ。図書館には「調べものカウンター」としてレファレンス機能があるが、一般の方だけでなくプロの方も頼りにしている。今回のケースから改めてレファレンスの重要性を認識した。発行元の「葡萄の会」には自身も参加している。メンバーには研究者や文学者の方もいらっしゃるが、高齢の方も多く、地域の古き良き文芸サロンがこのままだと無くなってしまうのではないかと危惧している。今回、図書館のスタッフとも思いを共有し、図書館の「ふるさと講座」と「葡萄の会のプロジェクト」を、一緒にスタートさせることができた。結果、普段はあまり動かないような近代文学の図書が動くようなこともあった。また関連動画を作成したり、大府の図書館でなければできない活動もあり、とても意義深い事だったと感じている。

ふるさと講座「大府の樋門を生んだ服部長七の人造石工法」についてだが、私は「ふるさとガイド」にも入っている。この講座の参加者39名の内三分の一から半分は、「ふるさとガイド」の仲間だ。仲間内では、資料も充実しており非常に評判が良かった。講座をきっかけとして今後も連携を図る為、「ふるさとガイド」の会長と、図書館の担当者を引き合わせたが、図書館担当者が異動になってしまったのは残念だ。

T R C 新しい担当者とも是非連携をお願いしたい。

E 委員 昨年は大府の図書館でしかできない取り組みが多く、良かったと感じている。他団体との連携も重要だ。今後ともよろしくお願ひしたい。

～第2期（2019～2023年度）中期事業計画「文化・交流部門」の変更点

及び2021年度運営計画「文化・交流部門」「図書館部門」より説明～

司 会 ご意見ご質問があれば伺いたい。

B 委員 計画書に記載されている和暦と西暦の扱いが混在している。西暦(和暦)で揃えた方が良いのではないか。

J C D ご指摘いただいた通り今後は統一する。

C 委員 「中期計画」の中の「地域文化を支える市民の拡大」について、大学との連携を考えているようだが、とても良い取り組みだと思う。学生が目的意識を持って企画運営を学んでいけば、若い世代へと文化の裾野が広がっていく。また出演するだけではなく、裏方を学ぶ事はとても重要だ。「日本福祉大学」からは参加者がないようだが、「至学館大学」との連携は、「地元」という点でも評価できる。

別件だが、報告の中で「TGIF」という言葉が出てきたが、意味を教えて欲しい。

J C D 「花の金曜日」というような意味で「Thank God Its Friday」の略である。「育み隊」が企画しているコンサートのことだ。

C 委員 最近は横文字が多く、マスコミでも「SDG s」が盛んに取り上げられている。自分なりに調べてはいるが分からぬ部分も多い。

T R C 図書館で「SDG s」の講座を実施する予定だ。講師は一般社団法人中部 SDG s 推進センターの方で、ユニーの役員もされた大府市在住の方だ。7月に実施するので是非参加して欲しい。

C 委員 コロナウイルスなど疫病についてだが、今の報道を見ていると人間の命を数字で図っているようなケースが多い。これからも疫病はあり得る事なので、本当の歴史的ストーリーや対策を勉強する必要がある。市民講座でもそういったテーマで実施してもらえると嬉しい。

大府市 「大府の樋門」「鈴木バイオリン」など地元との連携は嬉しい事だ。大学とも今後どこまで上手くいくかは分からぬが、「至学館大学」だけに限らず色々な大学と連携して欲しい。新型コロナウイルスとの関わりも2年目に入り、自治体も体力を問われている。「文化交流課」もスタッフの一人が本来の業務に加えて、ワクチン接種の協力をしているような状況だ。定期的な講座開催を評価するご意見があつたが、人と人との関わりを引き継いでいく為にも、文化事業をこれまでやってきた。止めてしまえばリスクもなくなり簡単だ。「チラシ」一つをとってみても、「良くする」という気持ちがなければ良くならない。講師も「良い講師」を選定するのはセンスが必要だ。新型コロナウイルスにより文化事業の優先順位が問われ、そういう事を十分に理解できない状況になってしまっているのも事実だ。だからこそ今後も連携を密にして協力をお願いしたい。

E 委員 来月市役所の多目的ホールでオンライン講演会を予定している。Free Wifi が2時間までしか使用できないと聞いているので、ポケットWifiを準備する予定だが、ポストコロナのオンライン事業を視野に入れ、大府市内にしっかりとしたインターネット環境を導入した施設が欲しい。

大府市 愛三文化会館のインターネット環境を変更した。これまでよりも利便性が上がったと思うので、確認してみて欲しい。アローブも環境が変わったはずだ。

J C D 開館当時よりは良くなつた。会議室 1.2.3 とギャラリーにおいて、Free Spot に繋がり易くなるように整備した。ただ有線ではないので注意は必要だ。

大府市 市役所についてはご意見を共有する。

司 会 次回運営協議会の開催予定は2021年11月18日(木)の予定だ。

事務局 お忙しいところご出席いただきありがとうございました。

今後も皆様に満足して頂けるように、スタッフ一同努力してきたいと思っておりますので

ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

以上で協議事項はすべて終了した。閉会。